る。難治性疾患克服研究事業において、各疾患についての診断基準の確立、治療指針の標準化、原因の究明、治療法の開発や疾患横断的な疫学・社会医学的研究等についても取り組んでいる。研究の実施にあたっては、臨床への応用を重視するとともに標準的な治療の普及を進めており、我が国の難病研究の中核として、今後もより一層臨床に応用できる成果を上げることが期待される。

【腎疾患対策研究事業】(仮称)

平成 19 年 10 月より「腎疾患対策検討会」において、今後の腎疾患対策のあり方が議論され、平成 20 年 3 月にその報告書がとりまとめられた。報告書では、CKD 診療を効果的かつ効率的に行うため、診療システムの構築と検証、リスク因子の同定等を進めるとともに、今後わが国での増加が予測される疾患の病態解明や治療法開発に関する研究などを推進するべきであるとされており、本研究事業は、その方向性に沿ったものである。平成 19 年度から開始された戦略研究と連携し、より一層の成果を上げることが期待される。

4. 参考(概要図)

国民を悩ます病の克服に向けて

生活習慣病

希少性難治疾患

〈循環器疾患等生活習慣病 対策総合研究事業〉 糖尿病 狭心症·心筋梗塞 脳卒中 等 神経難病 びまん性肺疾患 炎症性腸疾患 等

〈難治性疾患克服研究事業〉

予防法の確立

- ・生活習慣病予防のための栄養・運動に関する指針の策定
- ・生活習慣病の早期発見・予防のための健診・保健指導体制の構築

慢性腎臓病 免疫 (CKD)

慢性糸球体腎炎 腎硬化症 多発性囊胞腎 等

〈腎疾患対策研究〉(仮称)

免疫・アレルギー疾患

気管支喘息 花粉症 関節リウマチ 等

〈免疫・アレルギー疾患等 予防・治療研究事業〉

QOLの向上

・在宅医療への先端技術の導入、 医療体制の整備による自立促進・リウマチの早期診断・早期治療 による骨破壊の予防

・CKDの重症化予防による透析 導入患者数の減少

診断・治療法の開発

- ・治療法開発につながるヤコブ病等の病態解明
- ・ゲノム関連技術・再生医療等の先進技術を臨床に応 用した難病治療法の開発
- ・ワクチン等によるアレルギーの根治療法の開発
- ・慢性糸球体腎炎を始め各病態に応じた治療法の開発

標準的な治療法の普及

- ・糖尿病、喘息、アトピー性皮膚炎等、各疾患の診療ガイ
- ドライン策定・改定により標準治療を普及・AEDの使用を含めた新たな救急ガイドラインの策定
- ・難病の診断・治療指針の作成による医療水準の向上
- ・生活習慣改善等によるCKD重症化予防の有効性確立

臨床研究の推進

- ・大規模臨床研究により、日本人における生活習慣病に関するエビデンスの確立
- ・新たな治療法の難病治療への実用化に向けた臨床研究の推進
- ・患者の長期追跡により、治療効果や有害事象を明らかにし有効な治療法の選択を実現

死亡の減少

健康寿命の延伸

疾患の克服